


令和7年度

転倒予防説明会

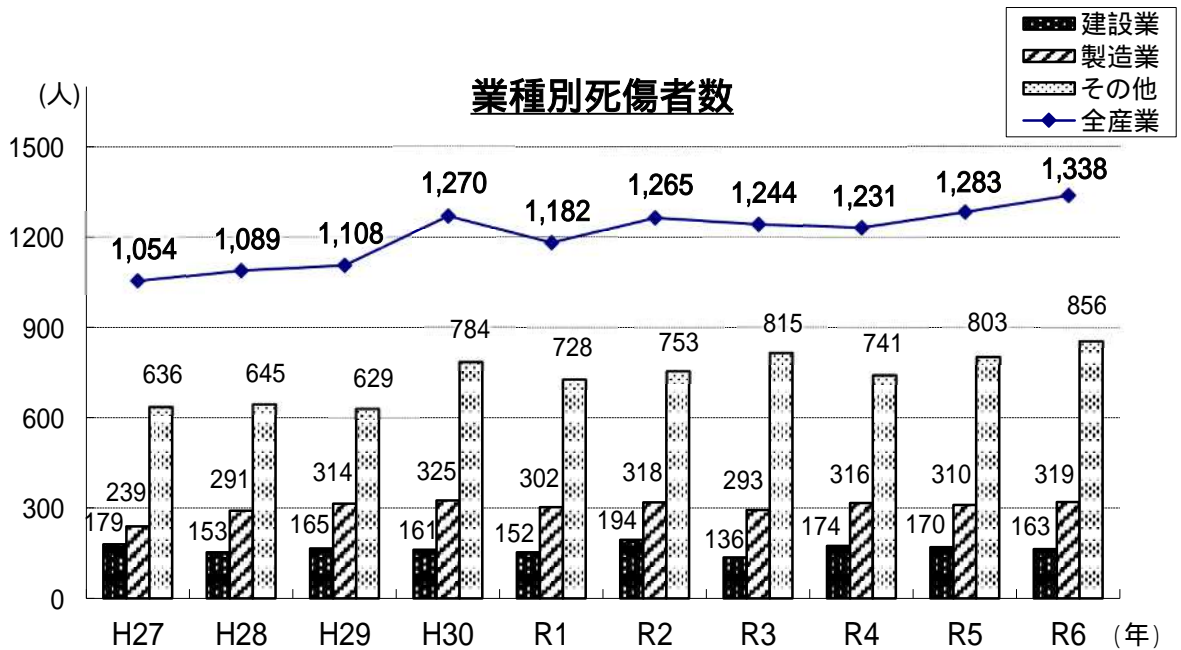
説明資料



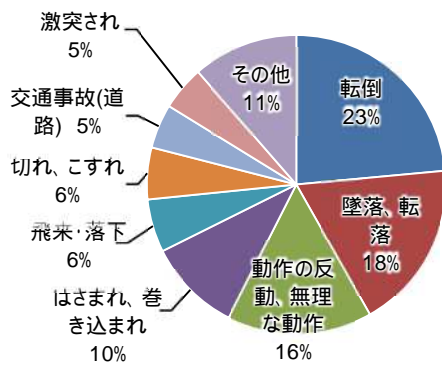
 厚生労働省

佐賀労働局

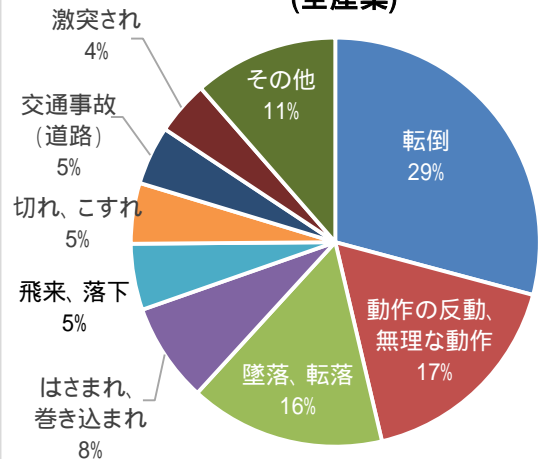
佐賀県における労働災害の推移



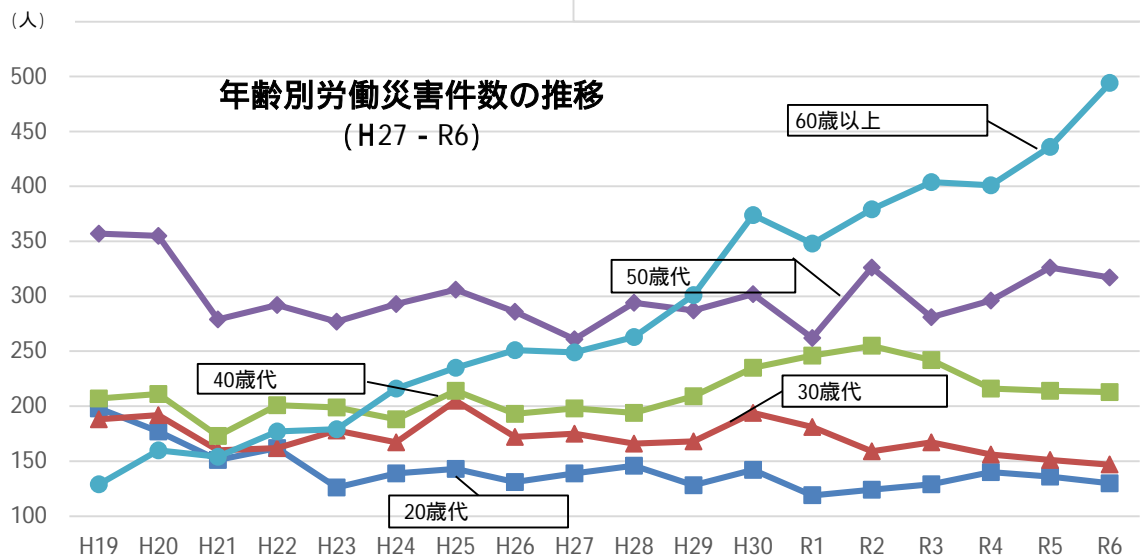
平成30年労働災害事故の型別
(全産業)



令和6年労働災害事故の型別
(全産業)



年齢別労働災害件数の推移
(H27 - R6)














資料: 労働者死傷病報告(休業4日以上)(コロナを除く)





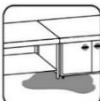




労働者の転倒災害（業務中の転倒による重傷）を防止しましょう

50歳以上を中心に、転倒による骨折等の労働災害が増加し続けています
事業者は労働者の転倒災害防止のための措置を講じる必要があります

「つまずき」等による転倒災害の原因と対策

- ☐ (なし) 何もないところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒
➤ 転倒や怪我をしにくい身体づくりのための運動プログラム等の導入（★）

- ☐  作業場・通路に放置された物につまずいて転倒バックヤード等も含めた整理、整頓（物を置く場所の指定）の徹底

- ☐  通路等の凹凸につまずいて転倒
➤ 敷地内（特に従業員用通路）の凹凸、陥没穴等（ごくわずかなものでも危険）を確認し、解消
- ☐  作業場や通路以外の障害物（車止め等）につまずいて転倒
➤ 適切な通路の設定
➤ 敷地内駐車場の車止めの「見える化」

- ☐  作業場や通路の設備、什器、家具に足を引っかけて転倒
➤ 設備、什器等の角の「見える化」

- ☐  作業場や通路のコードなどにつまずいて転倒
※引き回した労働者が自らつまずくケースも多い
➤ 転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に遵守を徹底させる


「滑り」による転倒災害の原因と対策

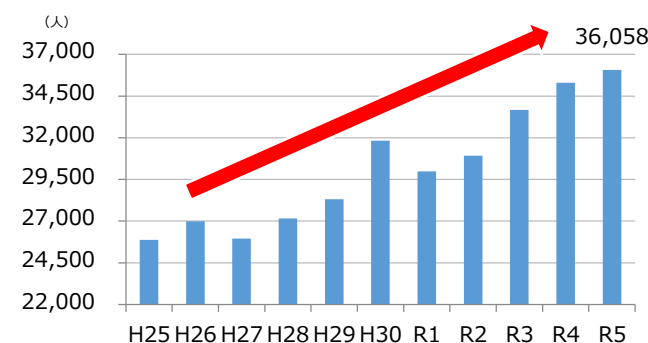
- ☐  凍結した通路等で滑って転倒
➤ 従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マット等を設置する（★）

- ☐  作業場や通路にこぼれていた水、洗剤、油等により滑って転倒
➤ 水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。
（清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してから開放の徹底）

- ☐  ウェットエリア（食品加工場等）で滑って転倒
➤ 滑りにくい履き物の使用（労働安全衛生規則第558条）
➤ 防滑床材・防滑グレーチング等の導入、摩耗している場合は再施工（★）
➤ 隣接エリアまで濡れないよう処置

- ☐  雨で濡れた通路等で滑って転倒
➤ 雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う


（★）については、高齢労働者の転倒災害防止のため、中小企業事業者は「エイジフレンドリー補助金」を利用できます

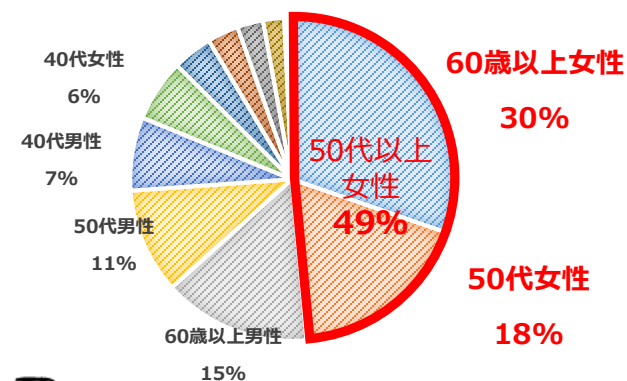
中小事業者は、無料で安全衛生の専門家のアドバイスが受けられます

⚠ 職場で転倒して骨折（転倒災害）

転倒災害は増加の一途



性別・年齢別内訳（令和5年）



転倒災害による平均休業日数（令和5年）

48.5日

※労働者死傷病報告による休業見込日数

よくある転倒の原因と対策

転倒リスク・骨折リスク

➤ 加齢とともにすべての人が、転びやすくなります

✓ いますぐ「転びの予防 体力チェック」



✓ 「毎日かんたん！口コモ予防」（出典：健康寿命をのばそう SMART LIFE PROJECT）



➤ 特に女性は加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します

✓ 対象者に市町村が実施する「骨粗鬆症検診」を受診させましょう

✓ 骨粗鬆症予防も一緒に！「骨活のすすめ」（出典：健康寿命をのばそう SMART LIFE PROJECT）



あなたの職場は大丈夫？

転倒の危険をチェックしてみましょう！

チェック項目		<input type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	通路や階段を安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	靴は、すべりにくくちょうど良いサイズのものを選んでいますか	<input type="checkbox"/>
5	転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
6	段差のある箇所や滑りやすい場所などに、注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
7	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
8	ストレッチや転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>
9	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果は、いかがでしたか？

問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！

エイジフレンドリーガイドライン

(高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン)

このガイドラインは、高年齢労働者が安心して安全に働ける職場環境づくりや労働災害の予防的観点から、高年齢労働者の健康づくりを推進するために、高年齢労働者を使用する又は使用しようとする事業者と労働者に取組が求められる事項を具体的に示すものです。

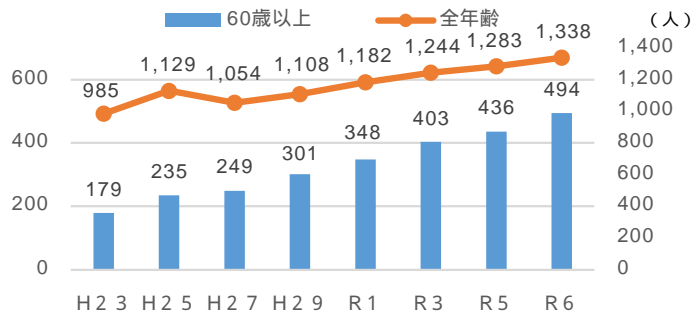
請負の形式による契約により業務を行う者についても参考にすることを期待

背景・現状

- 労働災害による休業4日以上の死傷者数のうち、60歳以上の労働者の占める割合が増加傾向。
(令和6年は36.9%)

<佐賀県における全年齢と60歳以上の労働災害の推移>

資料：労働者死傷病報告（休業4日以上） 新型コロナウイルス感染症除く



1. 事業者求められる取組

(1) 職場環境の改善（身体機能の低下を補う設備・装置の導入）

高齢者でも安全に働き続けることができるよう、施設、設備、装置等の改善を行います

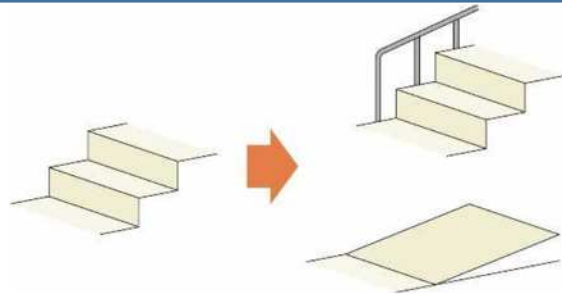
対策の例



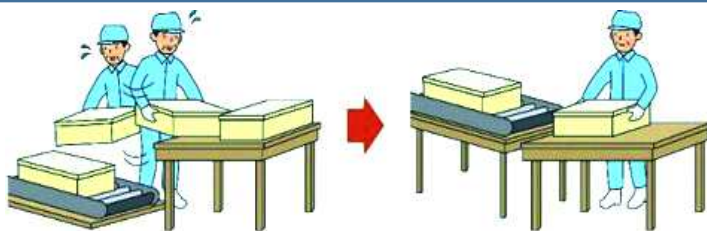
通路を含め作業場所の照度を確保する



警報音等は聞き取りやすい中低音域の音、パトライト等は有効視野を考慮



階段には手すりを設け、可能な限り通路の段差を解消する



不自然な作業姿勢をなくすよう作業台の高さや作業対象物の配置を改善する



涼しい休憩場所を整備し、通気性の良い服装を準備する



耐滑靴を利用させる

例えば戸口に段差がある時



解消できない危険個所に標識灯で注意喚起



リフト、スライディングシート等を導入し、抱え上げ作業を抑制

(2) 高齢労働者の健康や体力の状況の把握

健康状況の把握

- ・健康診断の確実な実施
- ・職場で行う法定の健診の対象とならない方については、例えば地域の健康診断等を受診しやすくするなど、働く高齢労働者が自らの健康状況を把握できるようにする

高齢労働者の健康や体力の状況に応じた対応

- ・個々の高齢労働者の基礎疾患の罹患状況等の健康や体力の状況を踏まえた措置
- ・健康や体力の状況は高齢になるほど個人差が拡大するため、個々の労働者の状況に併せた業務を提供
- ・心身両面にわたる健康保持増進措置の活動 ロコモティブシンドローム

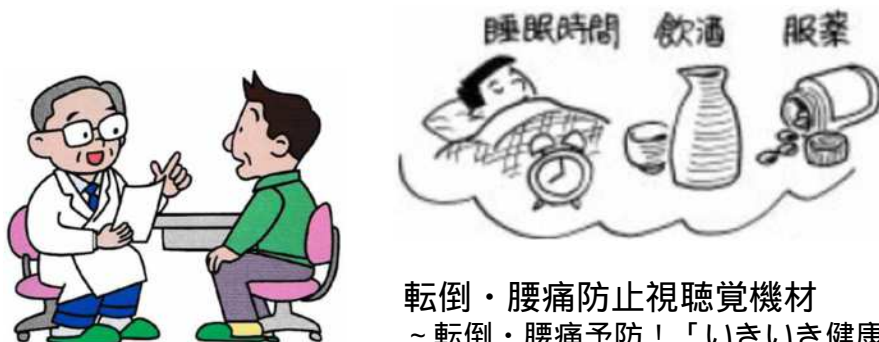
(3) 安全衛生教育

高齢労働者に対する教育

- ・作業内容とリスクを理解させるため、時間をかけ、写真や図、映像等を中心とした情報を活用する
- ・再雇用等により経験のない業種、業務に従事する場合は特に丁寧な教育訓練を行う

管理監督者等に対する教育

- ・教育を行う者や管理監督者、共に働く労働者に対しても、高齢労働者に特有の特徴と対策についての教育を行う



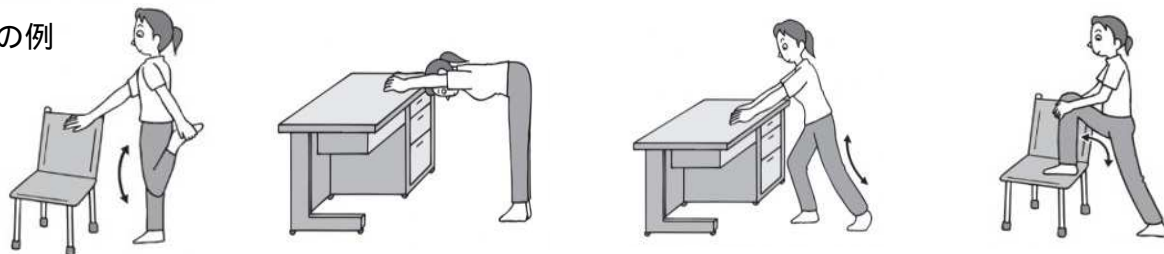
転倒・腰痛防止視聴覚機材

～転倒・腰痛予防！「いきいき健康体操」～（動画）他



労働者に求められる取り組み：事業者が実施する労働災害防止対策の取組に協力するとともに、自己の健康を守るための努力の重要性を理解し、自らの健康づくりに積極的に取り組むよう努める。

対策の例



ストレッチの例：「介護業務で働く人のための腰痛予防のポイントとエクササイズ」より

国・関係団体等による支援の活用

- (1) 中小企業や第三次産業における高齢労働者の労働災害防止対策の取組事例の活用
- (2) 個別事業場に対するコンサルティング等の活用
- (3) エイジフレンドリー補助金等の活用（令和7年度より総合対策コースが新設）
- (4) 社会的評価を高める仕組みの活用（安全衛生優良企業公表制度、あんぜんプロジェクト等）
- (5) 職域保健と地域保健の連携及び健康保険の保険者との連携の仕組みの活用

好事例を参考にしましょう

取り組み事例を参考にして、自らの事業場の課題と対策を検討してください

厚生労働省ホームページ

(先進企業) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000156041.html>

(製造業) <https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/1003-2.html>

中央労働災害防止協会ホームページ

<https://www.jisha.or.jp/age-friendly/>



と き

令和7年12月18日(木)

午後1時30分から午後4時まで

ところ

佐賀県立生涯学習センター **アバンセ**

対象者

佐賀市天神3-2-11

職域・地域でのメンタルヘルス関係者、一般県民の方々

心の健康づくり

フォーラム

—— テーマ ——
こころの元気が未来をつくる

特別講演

「食べることは生きること」

講師

やすたけ しんご
安武 信吾 氏



〈プロフィール〉1963年生まれ。福岡県宮若市出身。福岡市在住。新聞記者、書籍編集者などを経て、現在は「食」「いのち」をテーマにドキュメンタリー映画を製作。「弁当の日『めんどくさい』は幸せへの近道」で初監督、「いただきます みそをつくるこどもたち」ではプロデューサーを務めた。著書は、がん闘病中の妻と幼い娘との暮らしを綴ったノンフィクション「はなちゃんのみそ汁」(文藝春秋)など。

実技と講演

「心の健康につながる『コンディショニング』という概念について」

講師

健康運動指導士
秋永 尚宏 氏



〈プロフィール〉佐賀県小城市出身。鹿屋体育大学卒業後、東京YMCAにて健康運動人生スタート。5年後佐賀市リユーススポーツプラザへ。10年間の活動を経て、2014年10月地元小城市にパーソナルトレーニングスタジオ「Studio Life」を起業し現在に至る。佐賀県産業保健総合支援センターの産業保健相談員として、「腰痛予防」「転倒予防」「けがをしない身体づくり」等の講師活動も展開中。運動を教えるだけでなく、包括的な視点から健康になる方法、身体をより良く変える方法を提供し、人を元気にする取り組みを行っている。また、週末には、トレイルラン、マラソン、キャンプ、登山などの趣味も楽しんでいる。

定員
300
名

入場
無料

心の健康づくりフォーラム

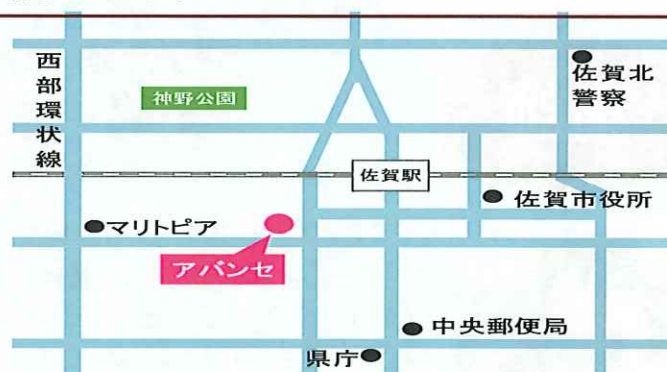
テーマ こころの元気が未来をつくる

現代社会では、家庭、地域、職場それぞれにおけるメンタルヘルスの課題が深刻化しています。家庭では親子関係の変化や育児・介護の負担、孤立による心理的ストレスが増加し、地域では、人とのつながりの希薄化や孤独感が問題視されています。また職場においても、労働や人間関係のストレスによる心の健康を損なうケースが少なくない状況です。

本フォーラムでは「こころの元気が未来をつくる」をテーマに、広く県民や働く人々の心の健康を守るため、より良い未来を創造するための知識と実技を入れた内容とすることで、参加者それぞれがメンタルヘルスの重要性を理解し、自分自身の心と向きあえる一助となるべく実施します。

会場アクセス

佐賀県立生涯学習センター
「アバンセ」1階ホール
佐賀市天神3丁目2-11



※参加はQRコードによる事前申込みをお願いします。事前申込みのない方は、当日入場できません。下記のフォームで3名まで申込みができます。

当日の流れ

13:00～受付
13:30～開会、挨拶
13:35～秋永先生の講演
14:15～安武先生の講演
15:45～閉会、挨拶

後援／朝日新聞社、佐賀新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK佐賀放送局、サガテレビ、ぶんぶんテレビ、NBCラジオ、エフエム佐賀

◆申込方法

右のQRコードによりお申し込みください。



※定員(300名)になり次第締切ります。

◆申込締切日 令和7年12月5日(金)

◆問合せ先

○佐賀県精神保健福祉協会

電話 0952-73-5060

○佐賀産業保健総合支援センター

電話 0952-41-1888

主催 厚生労働省佐賀労働局／佐賀県／佐賀県精神保健福祉協会
／(独)労働者健康安全機構 佐賀産業保健総合支援センター／
(一社)佐賀県労働基準協会／全国健康保険協会佐賀支部